

2009年(平成21年)3月期
決算説明会

知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

2009年5月22日

◆ 目 次 ◆

- * 2009年3月期決算概況および2010年3月期見通し
- * 中期経営計画「*WIT2008*」の総括
- * 新中期経営計画「*CHANGE”11*」について

2009年3月期の決算概況

2009年(平成21年)3月期決算の概況(連結)

◆2009年3月期決算概要

- ・世界的な金融危機、景気後退の影響などにより減収減益
- ・減収に伴う売上総利益の減少や年金数理計算上の差異などにより
営業利益は前期比46%の減益

(単位:億円)

	09/3	08/3	増減	前期比
売上高	7,152	7,647	▲495	94%
売上総利益	715	805	▲89	89%
販売管理費 (うち年金数理計算上の差異)	▲590 (▲21)	▲574 (▲1)	▲15	103%
営業利益	125	230	▲105	54%
経常利益	130	248	▲117	53%
当期純利益	58	100	▲41	58%
1株当たり当期純利益	45円17銭	77円86銭	▲32円69銭	58%

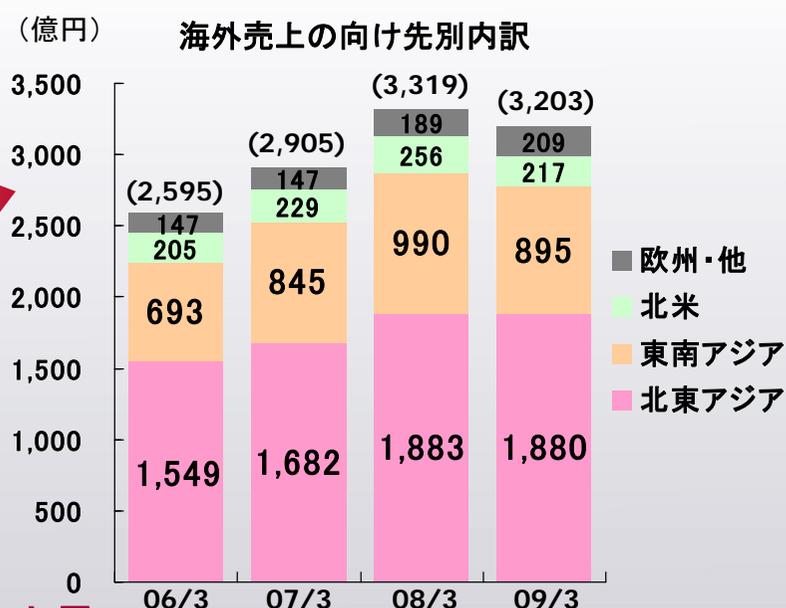
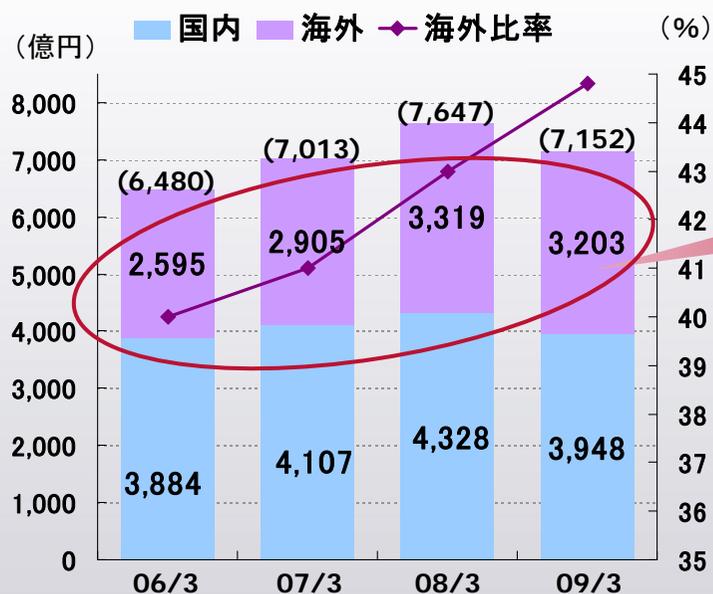
2009年3月期 業績四半期推移

(単位:億円・%)

	第1Q		第2Q		第3Q		第4Q		通期実績	
	前年同期比		前同比		前同比		前同比		前期比	
売上高	1,877	105	1,969	104	1,903	96	1,402	71	7,152	94
化成品	699	111	708	105	632	91	443	66	2,484	93
合成樹脂	655	108	689	105	703	94	480	66	2,530	92
電子	379	93	422	98	408	104	322	80	1,532	94
ライフサイエンス	137	102	144	109	154	105	152	101	589	104
その他	4	38	3	—	3	79	3	110	15	82
売上総利益 ＜利益率＞	195	103	195	99	184	87	139	68	715	89
	<10.6%>		<9.9%>		<9.7%>		<10.0%>		<10.0%>	
販売管理費	▲ 148	107	▲ 152	108	▲ 154	107	▲ 134	90	▲ 590	103
営業利益	46	92	42	77	30	46	5	10	125	54
経常利益	53	93	44	76	35	50	▲ 3	—	130	53
特別損益	▲ 0	—	▲ 1	—	▲ 22	—	4	6	▲ 18	41
税引前利益	53	—	43	54	12	19	1	1	111	55
当期純利益	31	—	25	53	3	7	▲ 2	—	58	58

地域（国内・海外）別売上高

◆売上高 7,152億円 前期比495億円減(国内379億円減、海外115億円減)



国内の減少が大きく、海外比率が43.4%から44.8%へ上昇

1) 北東アジア(グレーターチャイナ)

・化成品は中国・華南地域をはじめ好調に推移するが、電子は減少

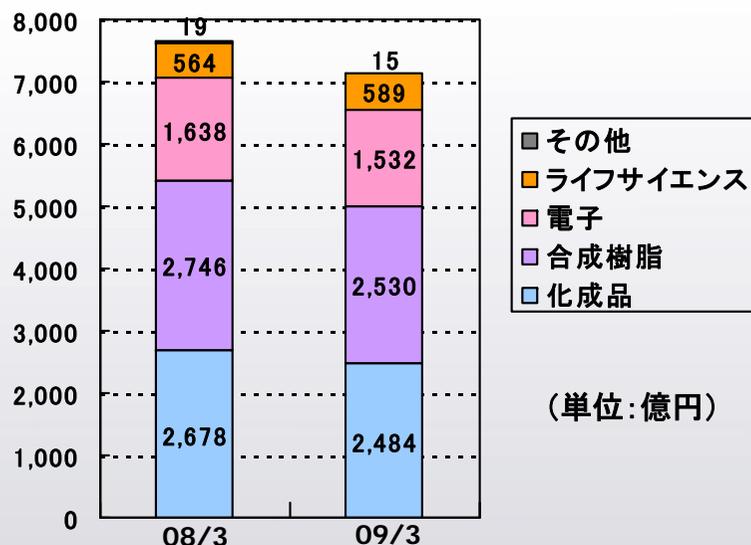
2) 東南アジア(アセアン)

・合成樹脂のプリンター・複写機など精密機器・電子機器用途が減少

3) 北米、欧州・他

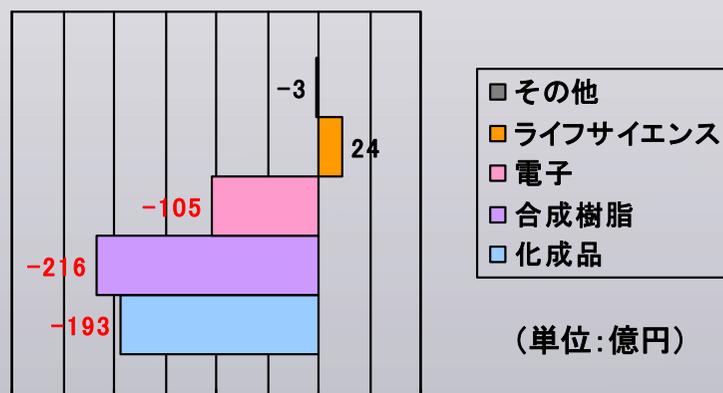
・北米は全般的に不調も、欧州は医薬品原料・中間体の販売が堅調

事業セグメント別売上高



(単位:億円)

売上高のセグメント別増減内訳



(単位:億円)

事業セグメント別の売上概況 (前期比)

化成品 ▲ 193 億円 (93%)

- 海外(特に香港)を中心とした印刷関連ビジネスが拡大も、染料関連は低調
- 自動車業界を中心にウレタン原料、塗料原料など減少
- 有機合成原料、液晶関連のナガセムテックス(株)製品など減少

合成樹脂 ▲ 216億円 (92%)

- 精密機器・電子機器用途はアジアを中心に海外、国内で大幅減
- 自動車関連用途は国内微減、アジアで増加、北米減少
- 建材・住宅関連用途は製品および原料ともに販売不振

電子 ▲ 105億円 (94%)

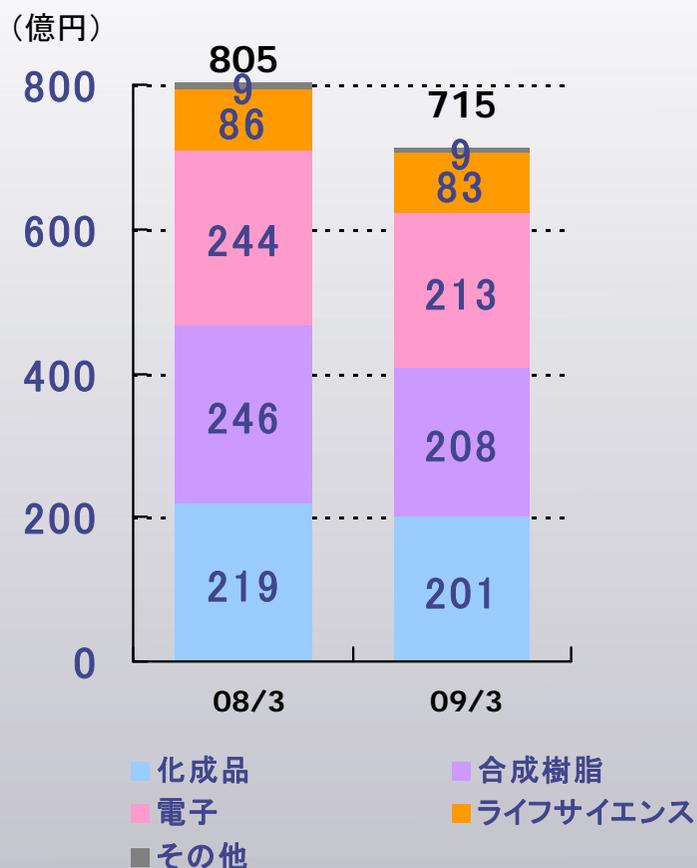
- 変性エポキシ樹脂、薬液販売減少、フォトソグラフィ用の薬液供給・管理装置の販売も不振
- 光学フィルム等の材料販売は好調も、液晶用部材加工、電子機器用アルミ外装材加工は大幅減少
- 精密研磨関連部材や半導体後工程関連材料が大幅減少

ライフサイエンス + 24億円 (104%)

- 検査薬・試薬ビジネスは好調
- 主力健康食品のリニューアルで売上増も、既存製品の売上減

事業セグメント別 売上総利益

715億円 前期比 89% 89億円減少



事業セグメント別 売上総利益概況 (前期比)

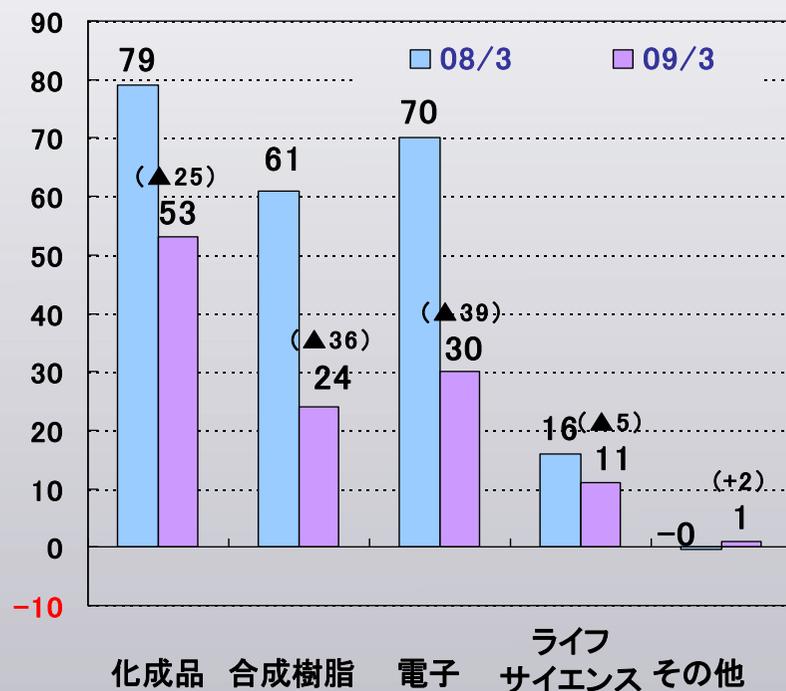
化粧品	▲ 18億円 (92%)
合成樹脂	▲ 37億円 (85%)
電子	▲ 31億円 (87%)
ライフサイエンス	▲ 3億円 (96%)

営業利益

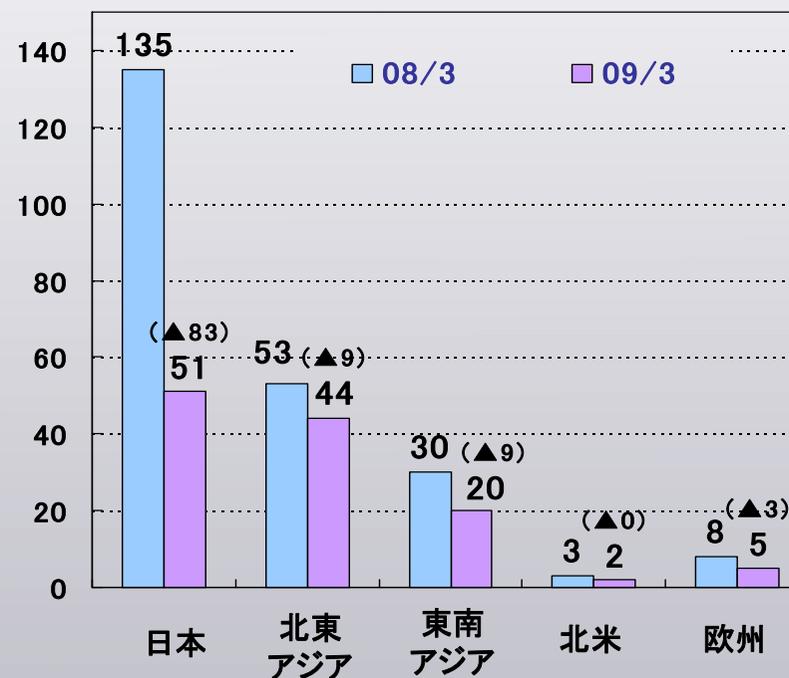
125億円 前期比54% 105億円減少

(単位:億円)

<事業セグメント別営業利益>

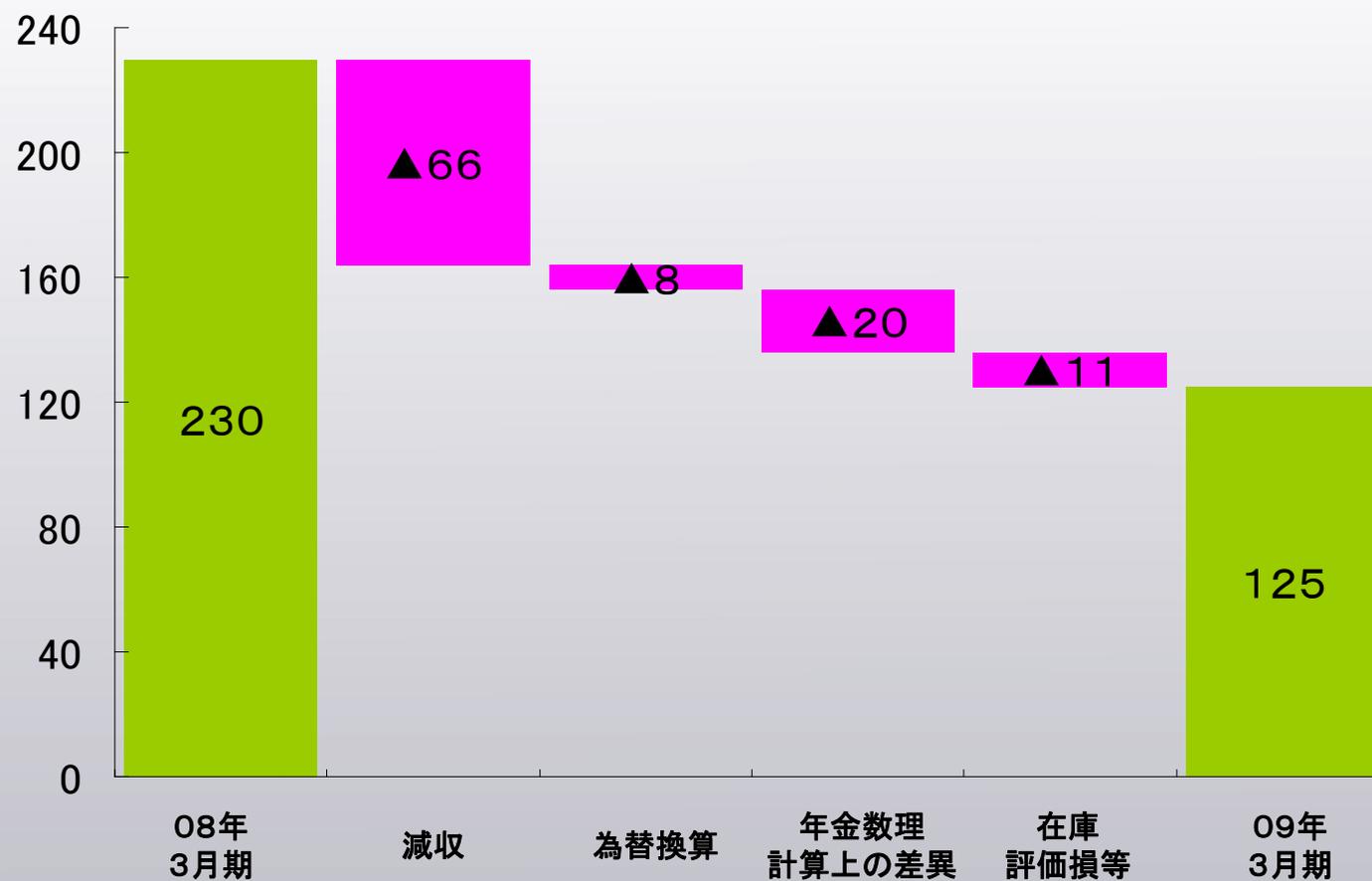


<所在地別営業利益>



営業利益 増減要因

(億円)



営業外損益・特別損益

<営業外損益>

(単位:億円)

	09/3	08/3	増減	前期比
営業外損益	5	17	▲12	30%
金融収支	3	4	▲1	83%
その他	1	12	▲11	10%

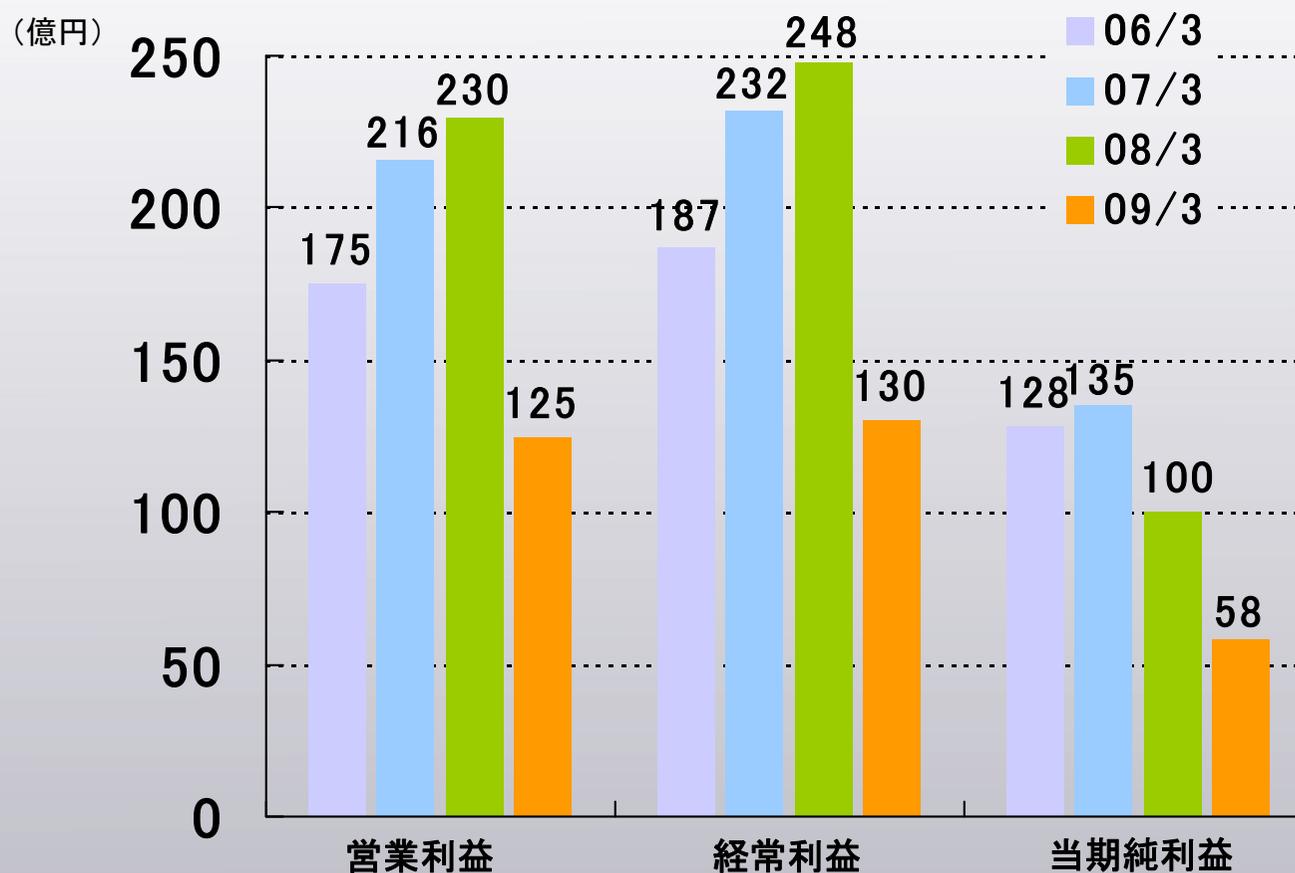
<特別損益>

	09/3	08/3	増減
特別利益	4	26	▲21
投資有価証券売却益	0	26	▲26
その他	4	0	+4
特別損失	23	72	▲48
商品自主回収関連費用	—	64	▲64
投資有価証券評価損	12	0	+11
その他	11	6	+4

経常利益・当期純利益

◆ 経常利益：130億円 前期比53% 117億円減少

◆ 当期純利益：58億円 前期比58% 41億円減少



主な貸借対照表の増減

- ① 運転資金減少(売上債権654億円減少、在庫28億円減少、仕入債務448億円減少)
- ② 時価下落により投資有価証券が189億円減少
- ③ シャープ堺関連等設備投資による有形固定資産33億円増加

(単位:億円)

《資産》	09/3	08/3	増減	《負債及び純資産》	09/3	08/3	増減
現金及び預金	261	234	+ 26	支払手形及び買掛金	900	1,348	▲ 448
受取手形及び売掛金	1,663	2,318	▲ 654	短期借入金	198	243	▲ 44
有価証券(譲渡性預金)	100	—	+ 100	商品自主回収引当金	1	5	▲ 4
棚卸資産	400	429	▲ 28	その他流動負債	162	241	▲ 79
その他流動資産	65	113	▲ 47	長期借入金	110	89	+ 20
有形固定資産	392	358	+ 33	退職給付引当金	68	66	+ 1
無形固定資産	27	33	▲ 6	その他固定負債	48	118	▲ 70
投資有価証券	435	625	▲ 189	株主資本	1,826	1,800	+ 25
その他固定資産	62	84	▲ 22	(うち自己株式)	(▲ 53)	(▲ 53)	(▲ 0)
				評価・換算差額等	19	205	▲ 185
				新株予約権	2	1	+ 0
				少数株主持分	70	76	▲ 5
				(自己資本比率)	(54.1%)	(47.8%)	(+ 6.3%)
資産合計	3,409	4,198	▲ 789	負債及び純資産合計	3,409	4,198	▲ 789

キャッシュ・フローの状況

運転資金の減少により営業キャッシュフローは361億円の収入
 有形・無形の固定資産取得や投資有価証券の取得により、投資活動キャッシュフローは110億円の支出
 運転資金の減少で短期借入は返済、設備投資に充てるため長期借入により資金調達

(単位:億円)

	09/3	主な内訳	08/3
営業活動による キャッシュ・フロー	361	税前利益 111億円 減価償却費 54億円 運転資金 234億円 法人税等の支払額 ▲78億円 有価証券評価損益 12億円	▲25
投資活動による キャッシュフロー	▲110	有形固定資産の取得 ▲96億円 投資有価証券の取得 ▲9億円 投資有価証券の売却 6億円 無形固定資産の取得 ▲8億円	▲70
財務活動による キャッシュ・フロー	▲55	短期借入金の減少 ▲70億円 長期借入による収入 50億円 配当金の支払 ▲32億円	107
現金及び 現金同等物の増減	126	譲渡性預金の積み増し100億円	11
現金及び 現金同等物の期末残高	361	現預金261億円 有価証券100億円(譲渡性預金)	234

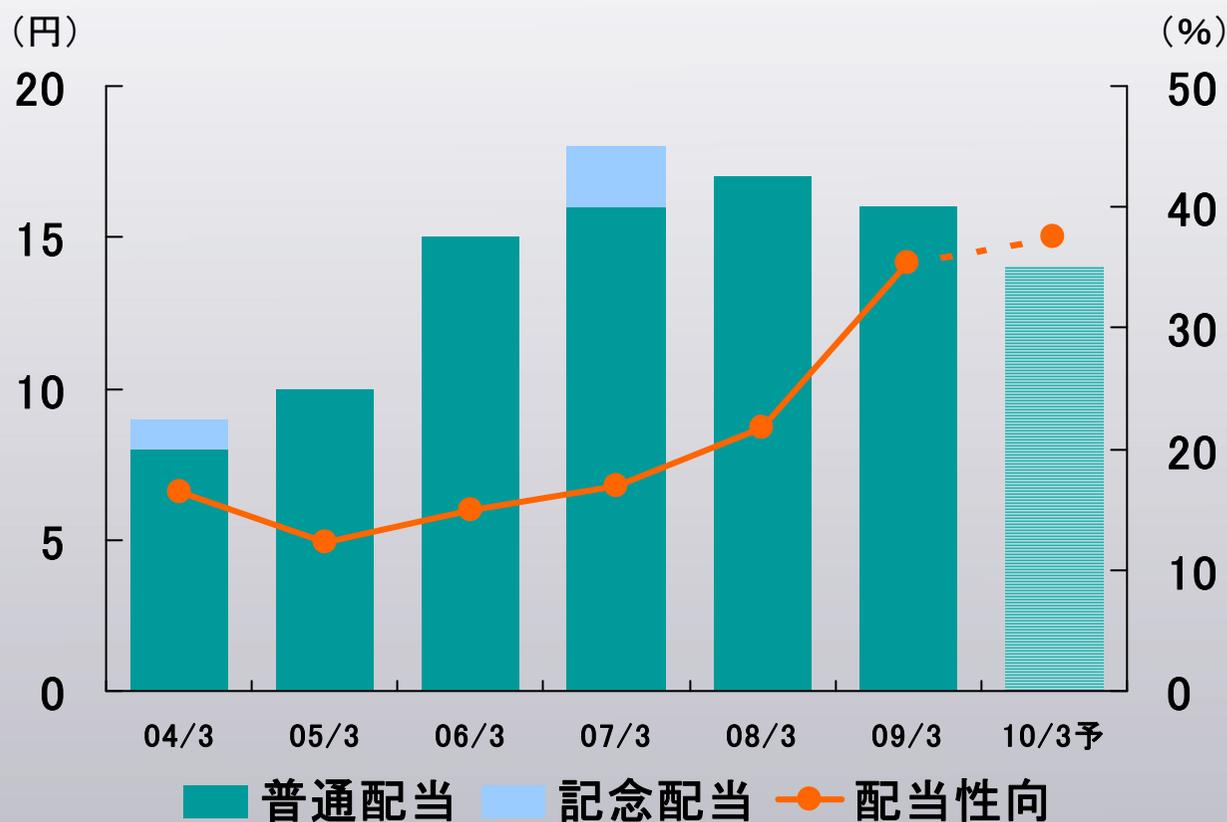
主な連結子会社の業績

(単位:百万円)

	社名	売上高	前期比	営業利益	前期比	当期利益	前期比
単体	長瀬産業	457,632	88%	2,573	35%	4,621	169%
製造会社	ナガセケムテックス	23,431	85%	936	31%	532	34%
	東拓工業	7,401	99%	259	49%	63	15%
販売会社	ナガセプラスチック	14,638	96%	29	39%	14	49%
	長瀬カラーケミカル	13,591	100%	145	83%	90	118%
	ナガセケミカル	13,294	88%	167	74%	96	87%
海外	ナガセ香港	80,333	104%	1,547	97%	1,223	91%
	ナガセタイランド	33,351	93%	1,066	65%	725	63%
	ナガセシンガポール	32,384	91%	390	65%	384	68%

配当政策

企業体質の一層の充実強化と収益力向上を図りながら、将来の成長に向けた中長期的な資金需要を勘案しつつ、安定的な配当の継続に努めることを基本方針としております。



2010年3月期業績見通し

2010年3月期 業績見通し

(単位:億円)

	10/3 予想	09/3 実績	増減	前期比
売上高	5,640	7,152	▲ 1,512	79%
売上総利益	584	715	▲ 131	82%
営業利益	68	125	▲ 57	54%
経常利益	77	130	▲ 53	59%
当期純利益	48	58	▲ 10	83%

2010年3月期 事業セグメント別売上高見通し

(単位:億円)

	10/3 予想	09/3 実績	前期比	コメント
化成品	2,080	2,484	84%	国内 前期比81% 海外 同76% 海外比率43.4%
合成樹脂	1,875	2,530	74%	為替レート US\$=102.8円⇒90.0円 (▲12.5%)
電子	1,060	1,532	69%	海外子会社の売上減や、 換算レート約12.5%円高により、 海外比率は43.4%と減少見込み
ライフサイエンス	610	589	104%	電子⇒化成品へ売上高約100億 円事業移管
その他	15	15	95%	
合計	5,640	7,152	79%	

中期経営計画「*WIT2008*」の総括

知恵をビジネスにする技術・情報企業

W ---- *Wisdom*

I ---- *Intelligence*

T ---- *Technology*

中期経営計画「WIT2008」の位置づけ

変革

WIT2000

- 経営基盤変革
- グループ経営開始

← 202 億円 →

推進

WIT21

- 事業方向性の明確化
- 事業基盤の強化
- 経営基盤の強化

← 237 億円 →

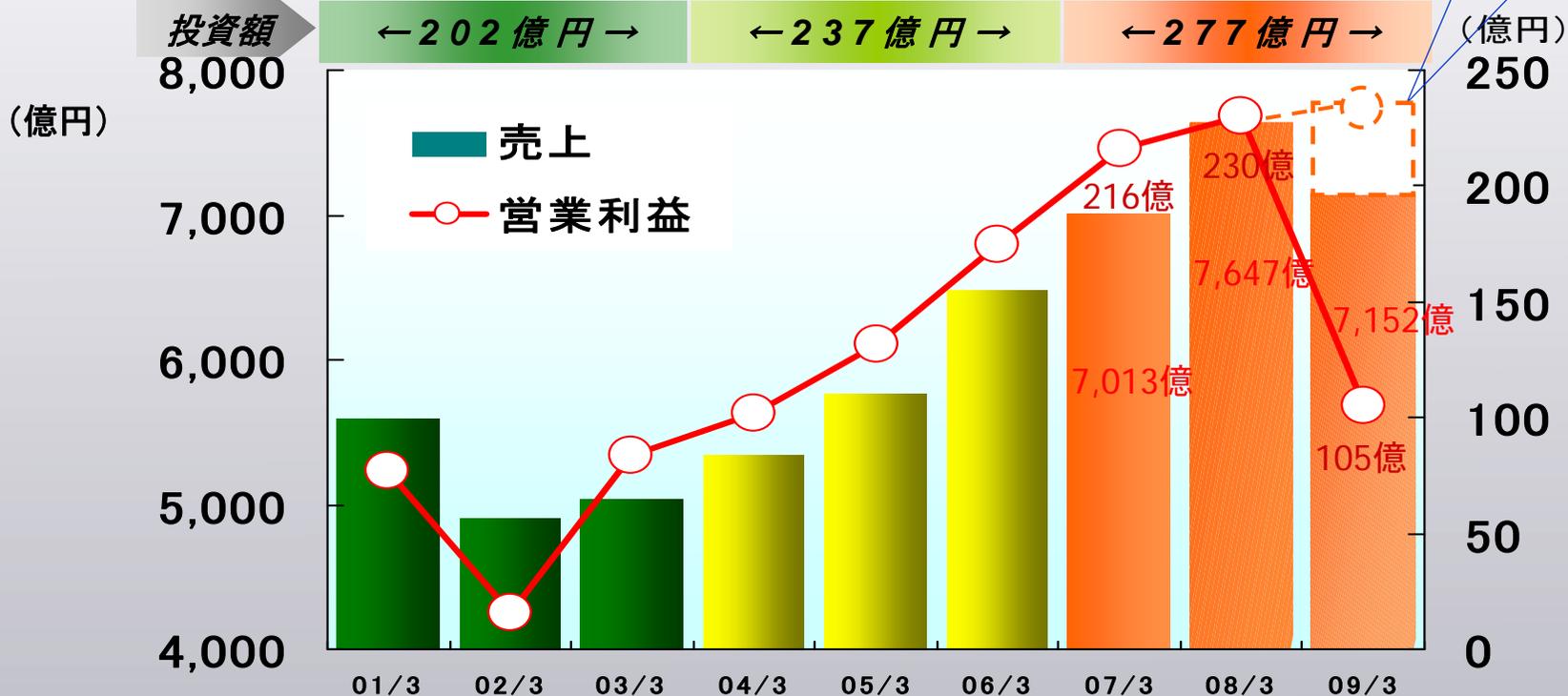
拡大・強化

WIT2008

- 体質強化
- ナガセらしさの継承
- 事業ポートフォリオ戦略の深化

← 277 億円 →

当初目標
売上 7,700億円
営業利益 240億円



中期経営計画「WIT・・・」(2001年3月期～2009年3月期)の重点施策

事業構造の転換

輸入代理店に象徴される仲介業主体から**研究開発、製造・加工機能**を付加した「**技術・情報企業**」へ

アジアビジネスの拡大

グレーターチャイナ・アセアンでの**規模・量の拡大**、
および**ビジネス拠点の整備**

連結経営への移行

- ・**グループ協業体制**の推進
(部分最適から、ナガセグループの**全体最適重視**)
- ・**会計制度変更**への対応

投資の推進

戦略分野における「**事業投資**」の積極化

「WIT2008」の成果 事業ポートフォリオ戦略の深化

■重点分野への積極投資：3年間で277億円の投資

エレクトロニクス

- ・シャープ「21世紀型コンビナート」への進出
- ・液晶用光学フィルム・ガラス加工、液晶周辺部材の加工・組立て等製造・加工事業の拡充（中国 華南地区、台湾）
- ・半導体実装開発センター開設（北九州学術研究都市内）

自動車

- ・インドネシアに自動車用フレームラミネーションの工場設立

ライフサイエンス

- ・ナガセケムテックス(株)福知山事業所でのリン脂質製造プラント建設
- ・ナガセ医薬品(株)での無菌製剤医薬品分野において設備拡充

■高収益への構造転換

新規技術の強化・拡充

- ・ナノテクノロジー関連の米国ベンチャー企業（ナノグラム社）に投資
- ・熱可塑性FRP、電子部品用シート封止材の開発

事業の選択と集中

- ・ポータブルDVDプレーヤー販売を中止
- ・プラスッド事業の譲渡

「WIT2008」の成果 事業ポートフォリオ戦略の深化 (つづき)

■海外戦略:

- ・海外販売の拡大 アジア地域での存在感を高める

	06/3期	07/3期	08/3期	09/3期
海外売上高	2,595億円	2,905億円	3,319億円	3,203億円
海外売上高比率	40.1%	40.6%	43.4%	44.8%

- ・拠点の拡充、新設 ドバイ、ベトナム、インド

■製造・加工戦略:

- ・ナガセアプリケーションワークショップ(NAW)設立
(2007年7月稼動 場所:兵庫県尼崎市)

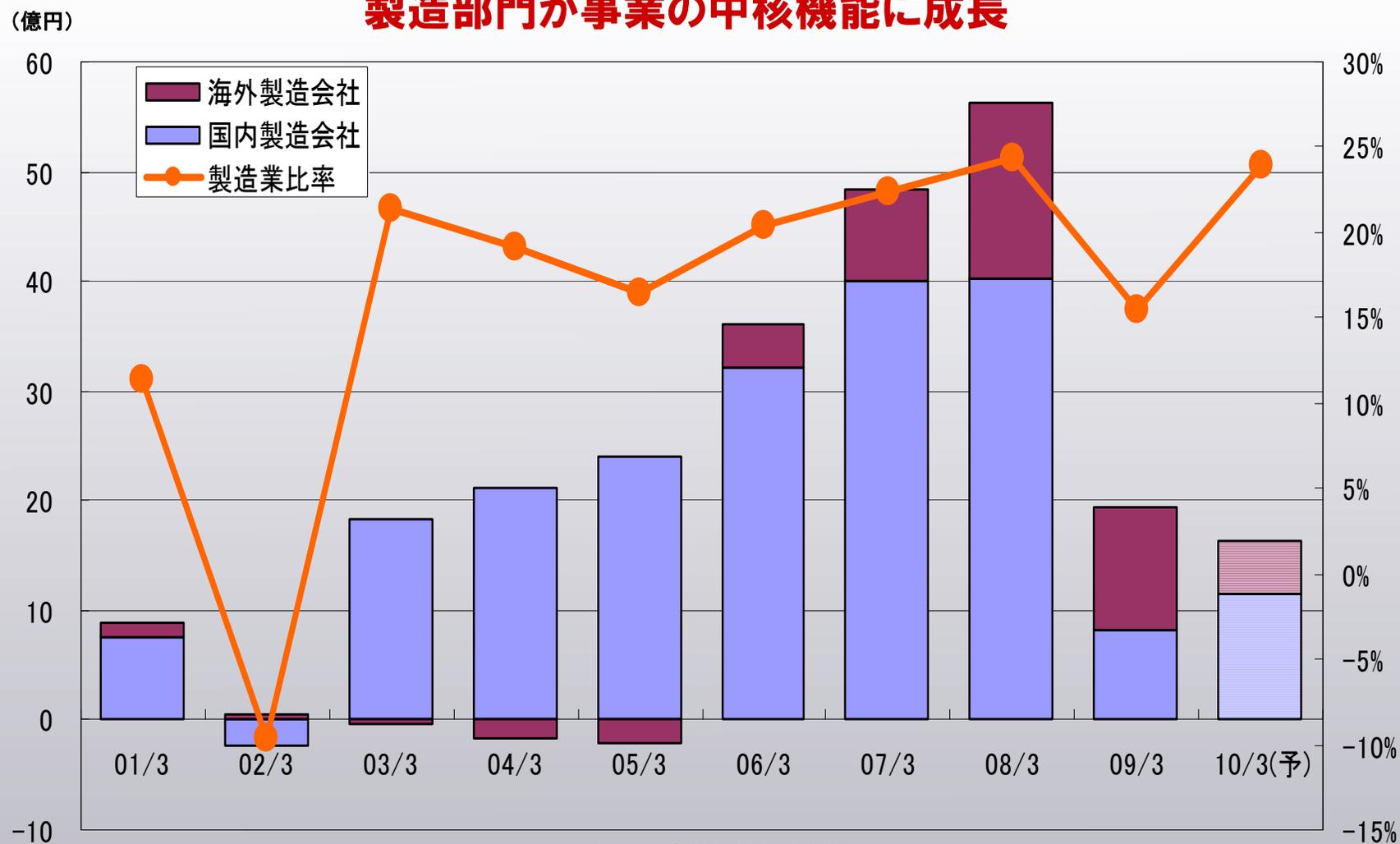
最終消費材メーカーへのアクセスを目的とした、
合成樹脂、色をキーワードとした取引先との
共同開発、技術サービスの拠点



- ・海外における製造機能を拡充 長瀬電子科技有限公司、Pac Tech社、
長瀬精密塑料(上海)有限公司、大日カラーベトナム等
- ・長瀬フィルター(株)の設立

製造業の占める割合（営業利益）

製造部門が事業の中核機能に成長



「WIT2008」の成果 内部体制の強化

■健全な財務体質の維持

- ・キャッシュフロー重視、営業キャッシュフロー改善
立替期間の短縮(06/3月期 2.16ヶ月 ⇒ 09/3月期 1.96ヶ月)

■連結経営体制の整備

- ・グレーターチャイナマネジメントオフィスの新設による地域一体運営体制の構築

■リスクマネジメントの徹底

- ・安全保障貿易、化学品管理などの徹底を図るため「コンプライアンス部」を新設
- ・製造業ビジネスと輸入品の管理体制強化のため「品質・環境管理室」を新設
- ・内部統制システムの強化・徹底
「コンプライアンス委員会」を「リスク・コンプライアンス委員会」に改編
～ 総合リスクマネジメント体制の構築 ～

■人材の質・量の充実

- ・「多様性」と「専門性」の確保と育成
外国人幹部の育成強化研修プログラム

新中期経営計画

“CHANGE”11

~To the Next Stage~

新中期経営計画 「“CHANGE”11」の取組み

3期(9年間)にわたる“WIT”

W ---- **Wisdom**

I ---- **Intelligence**

T ---- **Technology**



“CHANGE”11 (10/3期~12/3期)

事業と運営の質の向上

「“CHANGE”11」の経営理念と将来の目指す姿

経営理念

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、
社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、
社員の福祉の向上と社会への貢献に寄与する

将来の目指す姿

事業を通じて、夢と理想を
実現する場を提供する企業

技術を基盤として、強みを活かした
事業を中心に成長し価値を
高め続ける企業

市場構造・環境の変化を先取りし、
独自のソリューションを提案すること
で顧客とともに発展する企業

社会に貢献し、地球環境に
寄与する企業

外部環境の変化

- **企業に求められる価値のあり方**

ただ儲ければ良いという認識から、社会貢献、CSR、企業倫理をより重視

- **地球環境への関心の高まりと規制の強化**

- **原油他天然資源の価格上昇による市場構造の変化**

省エネ・軽量化・リサイクル・代替エネルギー開発などが促進される

- **中東、中国における新設石化プラントの稼動**

強みを生かした石化の環境変化への対応

一次原料から最終製品まで
カバーする総合力で
原料の安定供給性を確保

**サプライチェーン
スペシャリティ製品
の原料対応**

幅広い需要分野

- プラスチック
- エレクトロニクス
- ライフサイエンス
など

**変化を先取りした顧客への情報発信、
事業提案に注力**

技術情報

製造法の違いによる
バイプロダクツ対応

新設プラントの稼動による
バイプロダクツ需給動向への目配り

製造機能

製造業関連会社を
含めた総合的対応

グループ内で原料コスト、
供給安定性、リサイクル事業の強化

「“CHANGE”11」の基本戦略

基本戦略
事業と運営の質の向上

外部環境の
大きな変化

- ・企業倫理
- ・環境・資源問題

グループ内の
変化

- ・製造会社売上増
- ・海外売上比率高
- ・海外就労人員増

変わらなければいけないという
意識

経営理念
(誠実に正道を歩む)

「“CHANGE”11」の重点施策

- 1 事業の選択と集中
- 2 環境・エネルギー関連技術の取り組み
- 3 研究・開発・製造機能の強化
- 4 グローバル化の推進
- 5 リスクマネジメントの強化
- 6 ダイバーシティの推進とワークライフバランスの支援

環境・エネルギー関連技術の取り組み



注力分野、技術を切り口に
強みを発揮できる分野を徹底的に問い直す

全社戦略に基づく 事業の選択と集中

- ・重点分野の設定
- ・育成、重点事業への積極投資
- ・不採算事業の見直し
- ・戦略に合わないビジネスの整理

既存の事業セグメント



研究・開発・製造機能の強化

グループ生産会社の事業強化

M&A、投資による機能拡大

研究開発・技術サポート体制の強化

生産、品質管理・保証体制の強化

グローバル化の推進



欧米ビジネスの再構築

- ・新技術のインキュベーション
- ・製造拠点の配置

アジアビジネスの基盤強化

- ・量から質へ
- ・インド～中東地域への注力
- ・製造拠点の拡充

社内管理体制の強化

リスクマネジメントの強化

- コンプライアンスの強化
- 事業リスク管理、内部統制の徹底
- 管理体制の整備（人員の拡充、ITインフラの強化）

ダイバーシティの推進とワークライフバランスの支援

- 多様な能力・個性を最大限発揮できる働きやすい職場環境の整備
 - － 支援体制・制度の見直し・改善
 - － 多様性を受け入れ尊重する風土・文化作り

環境・エネルギー関連 ビジネス事例

ナガセケムテックス製品が風力発電ブレード素材に



ナガセグループの技術・情報力の活用

長瀬産業-営業:
長年に亘る
エポキシビジネスにおける
(電力業界) **情報力**

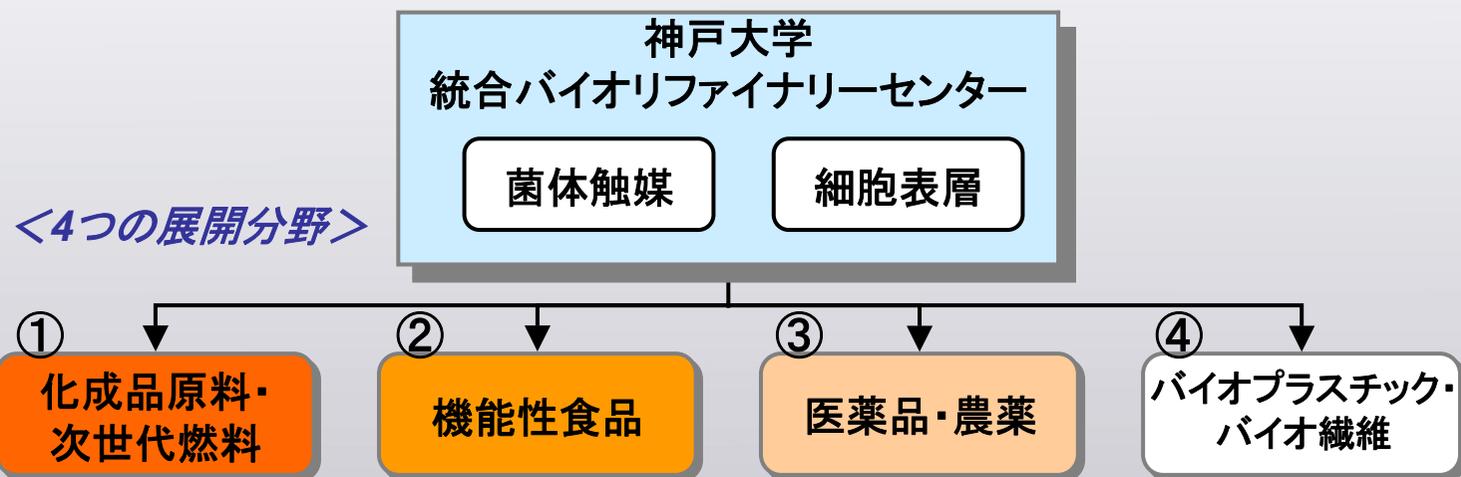
ナガセケムテックス(株)-製品化:
長年培った
エポキシ樹脂における
開発技術力、実績、信頼

長瀬精細化工(無錫)-海外展開:
中国マーケット向けに
中国での現地生産、供給

環境・エネルギー関連 技術開発事例

バイオ技術の応用、発展

- 神戸大学「バイオプロダクション次世代農工連携拠点」プロジェクトに参画
 - ・バイオマス(生物資源)から具体的な製品化を目指す国内初の総合研究拠点

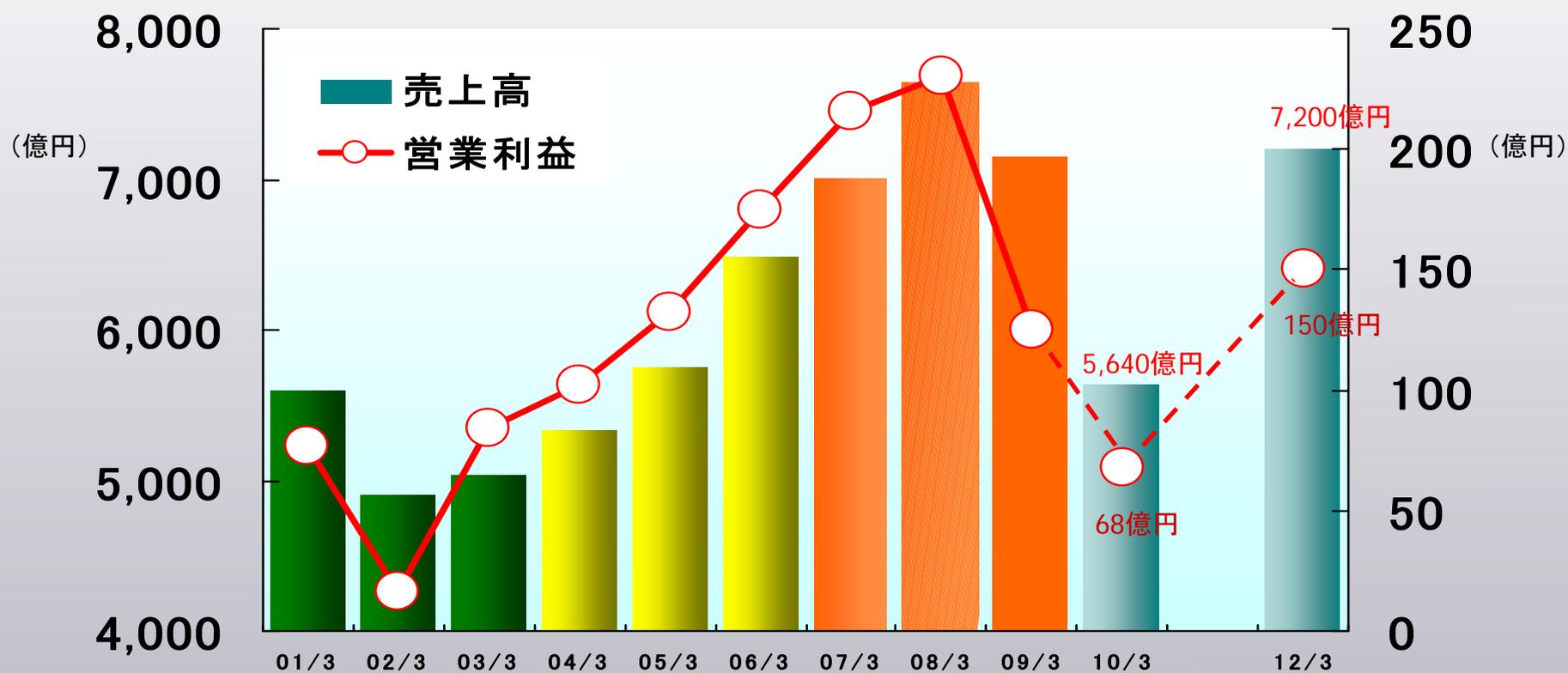


長瀬産業
(ナガセR&Dセンター)

(08年7月 参加表明)

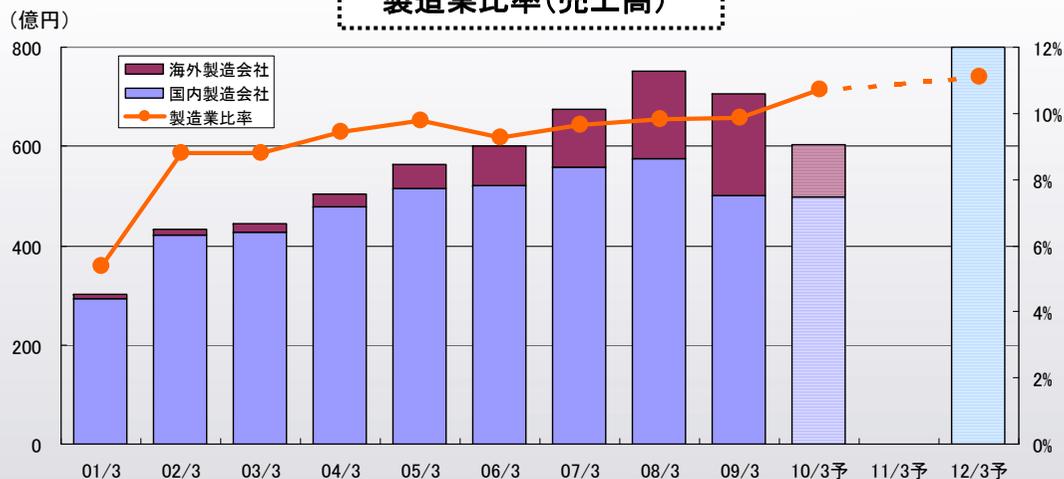
ほか、帝人(株)、三井化学(株)、旭化成ケミカルズ(株)、
ダイセル化学工業(株)、(株)カネカ、月桂冠(株)、
コスモ石油(株)ら 全12社が参画

「CHANGE”11」の数値目標(1)

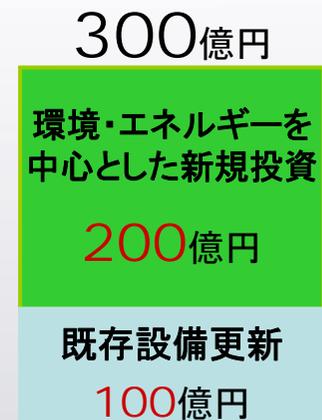


「CHANGE 11」の数値目標(2)

製造業比率(売上高)



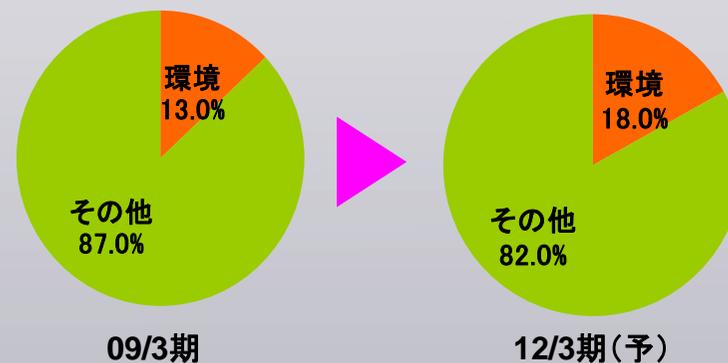
設備投資計画(3年間)



製造業比率(営業利益)



環境・エネルギー関連売上高比率



知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

<http://www.nagase.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2009年5月22日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。